

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和4年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人竹の子作業所
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日(5年間)
施設設置条例	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の提供を行い、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条)※地域生活支援事業の地域活動支援センターⅢ型を実施
施設概要	開館時間午前9時30分から午後3時30分まで 休館日 土曜日、日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数245日 敷地面積:416.89㎡ 延床面積:229.67㎡ 主な施設作業室、事務室、食堂兼集会室、更衣室、トイレ
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	3,697	3,761	3,723	2,374	2,983	3,237	
利用料金合計(円)	16,803,317	16,571,949	18,638,732	18,760,417	17,372,370	17,708,474	
支出総額(円)	16,803,317	16,571,949	18,638,732	18,760,417	17,372,370	17,708,474	

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
C	長期に休養等をしている登録者が複数人いることから、目標値に達しなかった。長期に休養等をしている登録者を除けば、通所利用率は80%を超えており、継続的な利用を促すことができている。

指標1

指標名(単位)	開所日1日あたりの平均利用者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し、日中活動や地域との交流に参加することにより、障害者の地域における自立した日常生活や社会生活の促進が図られるため、一日当たりの平均利用者数(年間延べ利用者÷開所日数)を成果指標とする

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(単位)	14.10	14.15	15.50	15.50	15.50	15.50	15.50
実績値(単位)	15.00	15.50	15.05	9.93	12.43	13.21	
達成度(%)	106.4%	109.5%	97.1%	64.1%	80.2%	85.2%	0.0%

4 事業の実施状況

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
A	新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度まで中止になっていた行事を再開することができた。地域イベントへの参加を通じ地域交流を図ることで、障害者への理解促進につながったと評価できる。「利用の促進に関する業務」についてはパンフレット等で促進活動を行っているが、令和4年度も新たな利用者がいなかったことから、当該業務について、法人の積極的な活動が必要である。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
相談支援	通年	言語化や表現が難しい利用者の方々について、毎日の様子を観察し、少しの変化に気付いて課題の早期発見に努めている。課題解決の為、本人や家族への助言等を行っている。	○
連絡調整	通年	利用者のサービスに関して指定障害福祉事業者と情報共有をし、必要に応じて市高齢・障害者福祉課や医療機関との連絡調整を行い、課題の解決に当たっている。	○
地域における連携	通年	地域の障害福祉関係者、行政機関、社会福祉協議会、商工会、高齢者包括支援センター等との連携を図り、利用者が地域でより良く生活してきくための支援を行っている。	○
センターの機能強化義務	通年	松が丘園で実施しているサービス管理責任者相当の研修を受けた職員が個別支援計画を作成し、計画に沿って職員全員が一貫した支援に当たっている。	○
生産活動を提供する業務	通年	地元企業からの請負作業や、自主製品制作販売を行い、生産活動を通して社会に貢献している。	○
地域交流に係る業務	通年	地域行事(やまびこ祭)に参加し地域住民との交流を図り、利用者の生き生きと活動する様子を認知してもらっている。	◎
地域活動支援	通年	津久井高等学校の実習生を受け入れ、障害者への理解を深めてもらうことが出来た。コロナ禍であり、施設開放(竹の子祭)は中止となったが代替として利用者とその保護者対象に「のこのこカフェ」を開催した。	○
センターの在り方の検討	通年	障害福祉サービス移行のための準備委員会を月一回行い、施設の課題と保護者の声に真摯に向き合い、今後について話し合いを行い、市と協議している。	○
利用の促進に関する業務	通年	施設前掲示板へ通所者募集のチラシを掲示、施設パンフレットも作成し連携事業所や施設見学者へ配布、新規入所者獲得のためのPR活動を行った。通所者については、季節ごとの行事を提供し、利用者満足度を高めた。	△

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
(なし)			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
調理実習	毎月	月1回利用者が当番となって調理実習支援を行い、自立支援を図っている。出来た料理を全員で頂く楽しい時間を過ごし、利用者の達成感に繋がっている。	○
たけのこカフェ	毎月	月1回、カフェを開き利用者がホッと出来る空間を提供している。利用者がウェイトレスをしたり、簡単な調理を行い、それぞれ役割を持てるよう支援を行った。	○
地域交流行事	通年	福前健康体操記念式典にてハンドベル演奏出演(6月)、もみじホール開催無料映画上映会(8月)、津久井中央ロータリークラブ交流食卓会(10月)、やまびこ祭(10月)地域の中へ出ていき、地域住民と交流でき、障害者への理解を広げた。	◎
日帰り研修旅行	年1回	仲間との親睦を深め、社会人としての嗜みを学びながら旅行を楽しむことを目的としている。令和4年は新型コロナ感染拡大の為に中止となったが、代替行事として昼食会・ポッチャ大会を開催し仲間と楽しみ親睦を深めることが出来た。	○

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	令和4年度アンケート調査では、「職員はあなたの気持ちをわかってくれ、きちんと対応してくれますか」とし、「はい(15票)」であった。回答者全員から良い回答を得ていることから、引き続き、個々の利用者に向けた支援等を期待する。なお、令和5年度の調査の際は、令和3年度以前同様に利用者満足度が図れるよう、目標値の基準を「職員の対応はどうか」との問いに対する4段階のうち「よい」「ふつう」と回答した方の割合の合計に修正することを求める。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	利用者15名に対して令和5年3月にアンケートを実施/サンプル数15件
目標値の基準	(職員はあなたの気持ちをわかってくれ、きちんと対応してくれますか)との問いに対する3段階のうち(はい)と回答した方の割合

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（%）	91.1	91.7	92.3	92.9	93.5	94.1	94.7
実績値（%）	80.0	85.0	92.3	93.8	93.8	100.0	/
達成度（%）	87.8%	92.7%	100.0%	100.9%	100.3%	106.3%	0.0%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
施設利用者モニタリング	毎月・適時	毎月モニタリングを実施している。利用者の要望がある時は適時傾聴の場を設けるなどの支援を行い、利用者のメンタルヘルスクアを行った。言葉で伝えにくい内容については、意見箱への投函を積極的に進め、サービス向上へ反映させた。

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
D	施設の収支は赤字であり、指定管理者(法人)の決算書(活動計算書)に重大な懸念が認められる。当該懸念事項について調査を行うとともに、法人の会計管理の体制について改善を図る必要がある。

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	
収入 (a)		17,313	16,370	17,078	
	指定管理料	15,952	15,331	15,980	
	利用料金収入	0	0	0	
	補助金(コロナ対策関連)	600	269	410	
	その他の収入	761	770	688	
支出 (b)		17,749	16,823	17,357	
	人件費	12,958	12,937	13,255	
	本社管理経費	761	770	688	
	その他の支出	4,030	3,116	3,414	
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		-436	-453	-279	
自主事業収入 (d)		0	0	0	
自主事業支出 (e)		0	0	0	
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		0	0	0	
全体収支 【(c)+(f)】		-436	-453	-279	
備考	全体収支の赤字分は、過去からの繰越金により充当している。				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について重大な懸念がある。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地確認及びヒアリング	
実施時期	令和5年2月20日	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	無
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

生産活動として、地元企業から受注されたプラスチック製品の分解やナットワッシャー入れなどの軽作業を行い、年間工賃として557,895円(通所者1人あたり2,905円/月)支払うことが出来た。

余暇活動として、お花見・あじさい見学・ブルーベリー狩り・もみじ狩り・クリスマス会・お正月のお茶会等の行事を提供し、利用者が季節を感じ生活に潤いを持って過ごして頂いている。

また、福前健康体操記念式典でのハンドベル演奏・もみじホール城山無料映画上映会への参加・津久井中央ロータリークラブ招待食事会・やまびこ祭への参加等、地域交流を深めることが出来た。

新型コロナ感染拡大の為、施設開放としての竹の子祭は中止となったが、代替行事として利用者と家族に限定した「のこのこカフェ」を開催し、親睦を深める機会となった。

加齢と共に衰えゆく体力維持を目的として福前健康体操の講師を月2回招き、楽しんで運動を行い、体力作りに励む事が出来た。

利用者ニーズを把握するため個別面談を行い利用者・家族から話を聞き、個別支援計画を作成することで、支援者一丸となって課題に寄り添う支援が出来た。

高齢化する利用者とその家族のニーズに応えられるような生活介護事業所への移行へ向けて障害福祉サービス事業所移行準備委員会で毎月話し合い、更なるサービス向上と移行準備に努めていく。

10 所管課意見

・令和3年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で実施していなかった行事を、令和4年度は概ね実施することができた。

・地域交流行事に積極的に参加し地域への障害者理解促進に貢献しながら、昼食の提供や調理実習などで利用者が楽しみを持てる事業を行い利用者満足度が非常に高いことが評価できる。

・平成27年度を最後に新規の利用者がいない状況が続いている。障害福祉サービスに移行しても新規の利用者がいないと事業の継続は困難であることから、積極的な広報・PR活動を行うとともに新規の利用者に向けて魅力ある施設運営を検討することを求める。

・施設の経営状況の確認を通して、法人の会計管理や会計書類に懸念が認められた。本課としても改善を求める。

11 選考委員会意見

【評価した点】

・地域交流行事に積極的に参加し地域への障害者理解促進に貢献しながら、昼食の提供や調理実習などで利用者が楽しみを持てる事業を行い利用者満足度が非常に高いことが評価できる。利用者目線に立ったサービスを引き続き継続されたい。

【今後期待する点等】

・利用者満足度調査について、詳細に質問項目を設定したほうがよい。
・引き続き地域の行事に積極的に参加し、更なる地域交流を図ってほしい。
・長期間にわたり新規利用者がいない点は大きな課題である。障害福祉サービス移行後にもサービスを継続できるよう、利用の促進に関する業務について改善の必要がある。
・法人の決算書上多額の「過年度損益修正益」が計上されているが、内容説明がなく原因が不明である。多額の過年度損益修正を行うならば、まずはその具体的内容（年度、科目、内容別の金額等）や、純資産や当期損益の変化、発生した原因、発覚の経緯等が説明されてしかるべきである。該当事項について確認するとともに、法人の会計管理について改善を図られたい。

総合評価（自動判定）

C

(50/100)

